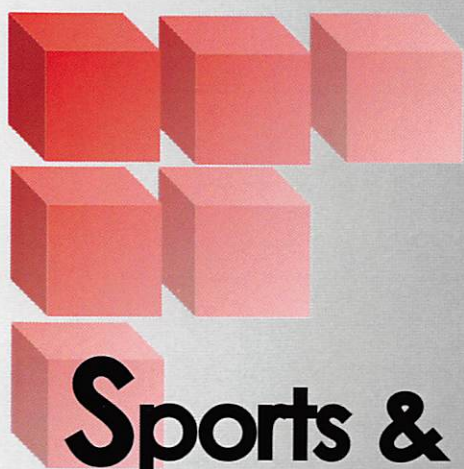


平成 30 年度「暫定的教育予算」

体育・スポーツの エキスパート育成プログラム

事業報告書

- アスリート・コーチ
- アスリートサポート
- 保健体育教員
- 健康運動指導者
- 生涯スポーツ教育者
- キャリア教育



**Sports & Health
Expert program**



平成30年度「暫定的教育予算」

体育・スポーツのエキスパート育成プログラム 事業報告書

目次

挨拶	01
プログラムについて	02
アスリート・コーチ育成プログラム	05
国内研修（水泳部）	08
海外研修（陸上競技部）	10
アスリートサポートプログラム	11
保健体育教員採用試験対策プログラム	12
健康運動指導者試験対策プログラム	14
生涯スポーツ教育実践プログラム	15
キャリア教育プログラム	16
成果一覧	18



スポーツ科学部では、平成 23 年度からスタートした本学企画の「魅力ある学士課程教育支援プログラム」に申請し、2 年間に亘り 820 万円の支援を受けることができました。その内容は、平成 22 年度入学生からスタートさせた本学部の新カリキュラムであり、学生が就職等の進路先も視野に入れた科目履修ができるよう方向付けをする（コース推奨科目群の設定）とともに、学年が上がるにつれて専門性が高められるよう編成されたものです。その新カリキュラムがこのプログラムに非常にマッチングしたものであると考え、「体育・スポーツのエキスパート育成プログラム」と称して申請し、採択され、たくさんの成果を得ることができました。

その継続 2 年目までを終了した後、平成 25 年度からは「教育推進経費」として 3 年間で 1,174 万円、平成 28 年度からは「暫定的教育予算」として 2 年間で 879 万円、そして平成 30 年度からは「学部教育充実予算」として 260 万円の支援を受け、ほぼ同様のプログラムを実施させていただきました。すでに、プログラムの定着化とコース色が色濃くなるような成果に繋がっています。

本プログラムは、「アスリート・コーチ育成プログラム」「アスリートサポートプログラム」「保健体育教員採用試験対策プログラム」「健康運動指導士試験対策プログラム」「野外教育実践プログラム」の 5 プログラムで構成されています。スポーツ科学科 4 コースと健康運動科学科 3 コースにマッチングした内容であると同時に、授業（単位）外での内容も加わり、充実したものとなっています。平成 30 年度は、アスリートとしてのいろいろな活躍、グローバル人材育成にも寄与している海外研修、健康運動実践指導者 10 名と健康運動指導士 10 名の合格、そして保健体育教員の 1 次合格 20 名、最終合格は現役 3 名など、この報告書から読み取れるさまざまな成果が現われています。さらに、本プログラムに間接的に関係する 2 年次生対象のキャリア教育の一環としての「ステップアップセミナー」の授業においても、ミニッツペーパー等から成果を窺い知ることができます。これら成果の詳細について、担当者が報告していますのでご一読ください。

以上のような成果が得られているのも、大学のご理解とご支援並びに学部教育に関わる多くの関係者のご尽力によるものであり、厚く御礼申し上げます。平成 31 年度も約 430 万円の支援が確定しており、より一層の内容充実を図るべく精進いたす所存です。益々のご支援ご指導を賜りますようお願い申し上げます。



スポーツ科学部では、平成 22 年度入学生から新カリキュラムのスタートに伴い、福岡大学の「魅力ある学士課程教育支援プログラム ー体育・スポーツのエキスパート育成プログラムー」とタイアップしてさまざまなプログラムを実行してきました。新カリキュラムの完成年度（平成 25 年度）にその効果を検証した結果、大変大きな効果が認められました。その後、平成 25 年度以降は、「教育推進経費」により本プログラムを継続し、平成 28 年度からは、減額されたものの「暫定的教育予算」によって継続してきました。そして、平成 30 年度からは「学部教育充実予算」として同様のプログラムを実施しました。このプログラムは、新カリキュラムの特徴であるコース制と連携をとるプログラムが多く、教育的な効果も高くなっており、スポーツ科学部の魅力をつくり出す重要なプログラムとなっています。

新カリキュラムは、1 年次生の学生が就職等の進路先も視野に入れた科目履修ができるように方向づけをする（コース推奨科目群の設定）とともに、学年が上がるにつれて専門性が高められるよう編成されたものです。「体育・スポーツのエキスパート育成プログラム」は、本学部の新カリキュラムと非常にマッチしたものであり、これまでの 7 年間で多くの成果を得ることができました。平成 30 年度においても「学部教育充実予算」で申請し、これまでと同様のプログラムを実施しました。それぞれのプログラムでは、コース色が色濃く出て、期待以上の成果が上がりました。

アスリート・コーチ育成プログラムでは、前期開講の「ピークパフォーマンス演習Ⅰ」の中で 4 回、オープンキャンパス時の特別講義に 1 回の計 5 回、特別講師を招いて講義をしていただきました。講義への参加は、授業登録者だけでなく登録者以外も含めて多くの学生が受講しました。後期には、3 年次生対象の「ピークパフォーマンス演習Ⅱ」の単位とも連動させ、陸上部の学生 1 名が台湾へ海外研修に行きました。国内研修では、水泳部の学生 5 名が自衛隊体育学校に行き、多くの成果を得て帰ってきました。また、研修を終えた学生は、現役学生たちへのフィードバックのために、新入生懇談会の中で活動報告を行っています。

アスリートサポートプログラムのバイオメカニクスサポートでは、びわこ成蹊スポーツ大学の高橋佳三氏を招いて、「古武術 for SPORT」というテーマでありましたが、実際に身体を動かしながら動作のコツを実演することから、講習会の形式で行われました。講習会には、格闘技であるレスリングや剣道の参加者だけでなく、サッカーや陸上競技からの参加もあり、30 名以上が動作のコツを習得するために学びました。

トレーナーサポートでは、第二記念会堂内のトレーニング室だけでなく、今年は総合体育館内のトレーナールームも活用し、福岡大学の運動部の学生に対して、テーピングやストレッチング、マッサージといったメディカルサポートを行いました。また、今後は総合体育館内のトレーナールームと第二記念会堂内の診療室も含めた、メディカルサポートシステムの構築を目指しています。

保健体育体教員採用試験対策プログラムでは、4年次生の保健体育教員コースの学生36名が「保健体育教職演習Ⅱ」を受講し、3年次生の同コースの学生38名が「保健体育教職演習Ⅰ」を受講しました。4月～7月にかけて1次試験対策講座および実技練習会を実施し、合格者には、集団討論練習会などの2次試験対策講座を行いました。その結果、20名が1次試験を合格しました。そのうち2次試験合格者は3名で、保健体育教員コースの合格率は、昨年(23.3%)より低くなり、8.3%(3名/36名)でありました。この他、2018年教員採用試験対策報告書の作成およびデータベース化を行いました。

健康運動指導士試験対策プログラムでは、4年次生の健康運動指導者コースの学生を対象に、健康運動指導士の試験対策の「健康運動指導演習Ⅱ」を通年の集中授業で行い、10名(15名受験)名の学生が合格し、66.7%の合格率でした。後期に3年次生の健康運動指導者コースの学生を対象に、「健康運動指導演習Ⅰ」の授業の中で、3回の実技試験対策講座講(外部の講師)と筆記試験対策を実施し、健康運動実践指導者試験に10名(11名受験)の学生が合格し、90.9%と高い合格率となりました。

生涯スポーツ教育実践プログラムでは、神崎清一氏(公益財団法人日本YMCA同盟総主事)を招聘して講演を開催しました。講演は、一方的な講義というよりも学生に問いかけを行い、気づきを導く手法や多様なプログラム映像を見ることで、学生たちにとっては、とても視野が広がる体験でした。

キャリア教育プログラムでは、これまで同様2年次生316名を対象にした「ステップアップセミナー」において、外部講師(消防士や青年海外協力隊経験者など)およびスポーツ科学部の学生(JICAとのボランティア連携事業経験者、企業内定取得者など)を招いてキャリア教育を行いました。学生は、スポーツに関連する職業の講師や学部卒業の現役高校教員の講義には、真剣な態度で受講しており、2年次から就職に対する意識づけが高まったと考えられます。

最後になりましたが、本プログラムを長い期間継続できたのは、大学のご理解ならびにご支援と学部教育にかかわる多くの関係者の方々のおかげでございます。皆様方に感謝するとともに厚くお礼申し上げます。

平成30年度本プログラムは、「学部教育充実予算」が大幅に削減され、プログラムのいくつかは縮小されましたが、スポーツ科学部の教育的効果は高く、学部の魅力づくりに大きく貢献しております。平成31年度はこれまで通りの予算に復活しますので、より一層の内容充実を図るべく精進いたしますので、ますますのご支援を賜りますようお願いいたします。

プログラムスタッフ

◇統括 田中守

◇アスリート・コーチ育成プログラム

乾真寛 米沢利広 片峯隆 村上純 田口晴康
柿本真弓 小牟礼育夫 田場昭一郎 坂本道人

◇保健体育教員採用試験対策プログラム

柿山哲治 梅田保人 今村律子

◇生涯スポーツ教育実践プログラム

築山泰典 藤井雅人

◇会計 吉武行寛

◇コーディネーター 米沢利広

◇アスリートサポートプログラム

布目寛幸 川中健太郎 下園博信 秀泰二郎
田村雄志

◇健康運動指導者試験対策プログラム

桧垣靖樹 山口幸生 川中健太郎

◇キャリア教育プログラム

坂本道人 野口安忠 柿本真弓

プログラム概要

目標と特色

スポーツ科学部では、平成 22 年度からスタートした新カリキュラムに向けて様々なプログラムを準備して実践してきた。新カリキュラムは、学生が就職等の進路先も視野に入れた科目履修ができるように方向付けをする（コース推奨科目群の設定）とともに、学年が上がるにつれて専門性が高められるよう編成されたものである。アスリート・コーチコースでは、平成 20 年度から 3 年間継続した「トップアスリート強化・支援のための実践プログラム」を一部継続しながら、全国大会上位入賞者および団体（チーム）のさらなる増加を、保健体育教員コースでは、3 年次からの人数制限科目の設定等により、教員採用試験の現役合格者あるいは卒業後早期合格者の増加を、健康運動指導者コースでも 3 年次からの専門家養成教育に重点を置くことにより、健康運動実践指導者および健康運動指導士の合格者の増加を、そしてトレーナーコースと生涯スポーツ教育コースでは、アスレチックトレーナーやトレーニング指導者、野外教育・レクリエーション指導者などのエキスパート育成を目指している。

アスリート・コーチコースの学生には、国内外で活躍する指導者や選手を招聘し、継続的な動機づけと明確な目標設定を行わせ、より高度な競技レベルへのチャレンジ精神と自発的に学ぶ姿勢を身につけさせる。さらに、国内外での研修を奨励し、国際的視野で活躍する人材を育成する。また、アスリートサポートプログラムでは、栄養サポート、メンタルサポート、フィジカル&バイオメカニクスサポートなどにより、サポートのエキスパート育成が期待できる。保健体育教員コースの学生には、教員採用試験突破に向けた講習会と勉強会を、健康運動指導者コースの学生には、健康運動実践指導者および健康運動指導士の試験合格に向けた講習会と勉強会を設定することで、意欲ある学生への支援が可能となる。トレーナーコースや生涯スポーツ教育コースの学生には、実践教育の場を供給できる点で効果が期待できる。また、2 年次生の開講科目「ステップアップセミナー」では、職業意識を高めるために、様々な職種の講師を招聘している。

主な内容

◇アスリート・コーチ育成プログラム

ピークパフォーマンス演習にて、5 回のセミナー開催、国内外研修

◇アスリートサポートプログラム

トレーナーサポートは常時コンディショニングルームで対応、定期的な勉強会の開催、フィジカル&バイオメカニクスサポートは外部講師を招聘して講演の開催

◇保健体育教員採用試験対策プログラム

保健体育教職演習Ⅰ・Ⅱ、実技試験対策、面接試験対策および 2 次試験対策を開催

◇健康運動指導士対策プログラム

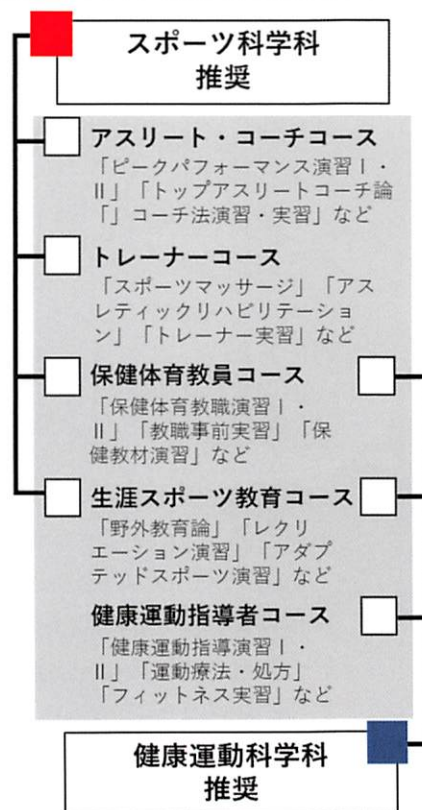
健康運動指導演習Ⅰ・Ⅱ、外部講師による実技と講義の開催

◇生涯スポーツ教育実践プログラム

講師を招聘して講演の開催

◇キャリア教育プログラム

外部講師およびスポーツ科学部の学生を招聘してキャリア教育を実施



アスリート・コーチ育成プログラム

担当責任者 乾 眞寛

Sports & Health
Expert program

2011年度から始まった「体育・スポーツのエキスパートの育成プログラム」は、8年目を終えた。2008年度に開始した「トップアスリート強化支援のための実践教育プログラム」3ヶ年を合わせると、計11年間継続されてきたことになる。

プログラム当初の目標は、競技面での実績を高めることであり、世界的スケールで活躍する一流アスリートを本学にお招きし、その貴重な経験談を定期的に聞ける場を現役学部生に提供することであった。そして、日本トップレベルを目指す志の高い学生を海外研修に派遣し、九州内や国内では経験できない環境に身をおくことで、高いモチベーションや挑戦する心を刺激することであった。

この継続した取り組みの成果により、日本国内のトップレベルで活躍する福大生アスリートの数は、年々飛躍的に増加し、全国ベスト8以上の入賞者または団体、チームは、プログラム開始前に比べて格段に増えている。

2年次生に開講された「ピークパフォーマンス演習Ⅰ」では、授業内に計4回、オープンキャンパス特別講義に1回の計5回、外部講師をお招きし、トップアスリートから直接に経験談や苦労話、失敗談をお聞きする機会を設けている。来学して頂いた5名の著名なトップアスリートの方々からは、壁に挑み、突破するためのヒントや取り組み方などを熱心にご教授いただきました。学生たちの関心度も強く、講義への出席状況も良好で、授業後に提出するミニッツペーパーの感想文からも学生各自の心に大きく響くものがあったことがわかる。

3年次開講の「ピークパフォーマンス演習Ⅱ」では、年々海外研修や国内研修を希望する学生が増加しており、本年度も陸上部1名（台湾）、水泳部5名（自衛隊体育学校）、計6名の学生たちが海外や国内研修へと挑戦の場を広げていった。その成果は、帰国後に現役学生たちへとフィードバックされ、ハイレベルな環境で実践的なトレーニングを経験することが、いかに人を成長させるか？ということをもって実証してくれている。

研修を終えた学生は、帰国後のチームの主力選手として活躍するだけでなく、卒業後には、プロスポーツ、実業団リーグ、全日本選手権など、活躍のステージを上げ、スケールアップした姿を見せてくれている。

これからも「九州の雄」にあまんじることなく、目標水準を高く保ち、グローバルなスケールで活躍できる人間性豊かなトップアスリートを育成することが、本プログラムの使命であると考えている。

プログラムを実施するにあたり、ご支援、ご協力いただいたミズノ株式会社様、その他の皆様に、心より御礼申し上げます。「福岡発、日本一経由、2020東京五輪、世界行!!」これからも、福大生アスリートの更なる活躍に、熱いご声援を宜しくお願い申し上げます。



ピークパフォーマンス演習 I セミナー講師紹介

高橋 千恵美 氏 元陸上競技（長距離・マラソン）選手

聖和学園高等学校時代に、全国高校女子駅伝に2度出場。

現在は執筆活動、講演活動、マラソン大会ゲストランナー、ランニングクリニックなどを行なっている。日本で初の【オリンピックで管理栄養士】として、ランニングの実技指導に加え、“ランニングと食事/栄養について”などの講演活動も実施中。

1999年 世界陸上セビリア大会に出場。10000mで5位入賞。

2000年 シドニーオリンピックで10000mに出場。

2009年 聖徳大学の人間栄養学部人間栄養学科へ入学。

「アスリートセカンドキャリア支援特別奨学推薦入試」の第一号

2013年 同校を卒業し、国家試験の管理栄養士に合格。

(2018年6月20日開催)



官野 一彦 氏 ウィルチェアラグビー選手

10代の頃はプロを目指す高校球児で千葉県木更津総合高校野球部でレギュラーメンバーとして活躍。社会人になって始めたサーフィンの事故で頸椎を損傷し車いすでの生活となる。知人の紹介で知ったウィルチェアラグビーに魅了され、すぐに頭角を現した。

2012年 ロンドンパラリンピック 4位

2013年 WWRC 4位

2014年 世界選手権 4位 カナダカップ 3位

2015年 アジアオセアニアゾーン選手権 優勝 best player 受賞

2016年 カナダカップ 3位

リオデジャネイロパラリンピック 銅メダル

2017年 アジアオセアニアゾーン選手権 2位

(2018年6月27日開催)



森 かおり 氏 元バドミントン選手

現在は、ミッドバドミントンプレイヤーとして、全国各地で講習会やイベントを実施。また日本代表U16のコーチとしても活躍。

2000年 全日本総合選手権 シングルス準優勝、女子ダブルスベスト8

2001年 全日本総合選手権 シングルス優勝、女子ダブルス準優勝

2004年 アテネオリンピック シングルスベスト16

2005年 アジア選手権大会 シングルス準優勝

2006年 アジア選手権大会 シングルス準優勝

(2018年7月4日開催)



谷本 歩実 氏 元柔道選手

愛知県桜丘高校を経て、筑波大学に進学

2010年 弘前大学大学院博士課程入学／服部栄養専門学校 栄養士科入学

2012年 服部栄養専門学校 栄養士科卒業

2018年 弘前大学大学院博士課程修了

《成績》

2001年 ミュンヘン世界選手権 銅メダル

2002年 釜山アジア大会 金メダル

2004年 アテネオリンピック 金メダル / 全日本選抜体重別 優勝

2006年 ドーハアジア大会 銅メダル

2007年 全日本選抜体重別 優勝 / リオ世界選手権 銅メダル

2008年 北京オリンピック 金メダル

(2018年7月11日開催)



小塚 崇彦 氏 元フィギュアスケート選手

2005-2006年 Jr. GP ファイナルで日本人初優勝。また、世界ジュニア選手権でも優勝を果たす。

2006-2007年 4月よりトヨタ自動車に所属しながら中京大学体育学部に進学。

2008-2009年 GP シリーズアメリカ大会でGP シリーズ初優勝。GP ファイナルにも出場し、総合2位。

2009-2010年 念願のバンクーバー五輪に出場し、8位入賞。

2010-2011年 GP ファイナルで総合3位、全日本選手権では初優勝。5月の世界選手権2位。

2014-2015年 全日本選手権で3位。

2016年 3月 フィギュアスケート選手としての現役引退を発表。

4月 中京大学大学院体育学研究科体育学専攻博士前期課程を修了後、トヨタ自動車の社員として社業に専念。

2017年 2月 トヨタ自動車と新しい関係性を構築し、フィギュアスケートをはじめとしたスポーツの普及活動を中心に、活動の幅を広げて新たなステージに挑戦。

(2018年8月4日 オープンキャンパス同日開催)



受講生レポート

(官野さんの話より) …講義の中で一番印象に残ったのは「夢はほとんど叶わないが、それを目標に変えて、逆算して考えれば夢は叶う」という言葉です。「努力の天才は、ただただ練習量をこなす人のことじゃなく、無駄な努力をせずに、効率よく工夫して努力する人の事だ」という言葉もとても共感しました。たくさんの考え方を与えてくれる講演会でした。

(高橋さんの話より) …やらないよりはやることを選ぶ人生だと、辛いことも自分のためになると思いました。

(谷本さんの話より) …勝つために必要な考える力、準備力、修正力。その中でもの一番大切な準備力。最悪な状況をイメージし、そのために最高の準備をする。今の自分にあてはめ、とても良い話を聞くことができた。

国内研修レポート（水泳部／ピークパフォーマンス演習Ⅱ）

<実習責任者：田場 昭一郎>

平成 30 年度のピークパフォーマンス演習Ⅱにおいて、自衛隊体育学校（東京都練馬区朝霞駐屯地内）で国内研修を実施しました。研修期間中は自衛隊基地からの外出は禁じられ、基地内での規律を遵守しなければなりません。自衛隊体育学校（水泳班）は、若干 10 名程度の選手で形成されたチームですが、リオデジャネイロ・オリンピックのメダリストや日本記録保持者らが集う非常にレベルの高いメンバーで、スタッフも 3 名の監督・コーチと、3 名のアシスタントによる手厚いサポートでした。また敷地内には陸上トレーニング室も完備されており、専属パーソナルトレーナーが随時 3 名ほど在中し、競泳以外にも様々な競技のトップアスリートが指導を受けていました。さらに医科学トレーニング班に派遣依頼して映像データの配信や乳酸測定も行われていました。このような環境でより高い意識でトレーニングに取り組めたこと、大学からの支援とこのような機会を与えて下さった関係者の方々に心より感謝申し上げます。

<スポーツ科学科 3 年 井ノ上 蒼樹>

私は「ピークパフォーマンス演習Ⅱ」において、平成 30 年 1 月 6 日～12 日の 6 日間、自衛隊体育学校のトレーニングに参加しました。自衛隊体育学校水泳班は約 10 名の選手で活躍しており、リオデジャネイロオリンピック銅メダリストの江原騎士選手や日本記録保持者の井田憲吾選手などレベルの高い選手が多く所属しています。トレーニングは 2 チーム（ショート・ミドルロング）に分かれて行い、それぞれ普段以上の高強度トレーニングを経験しました。またパーソナルトレーナーの方から体のケアや陸上トレーニングについて学びました。自衛隊体育学校は、起床 6 時、就寝 23 時の規則正しい環境で、外出禁止などの厳しい規則があり、初めは不安と気の引ける思いが中心にありましたが、多くの方々の気持ちのこもったサポート、また練習の合間に敷地内で乗馬体験をさせて頂くことでハードワークの中でもストレスを溜めることなく“充実感と達成感”を得ることができました。この 6 日間で学んだことを今後の競技生活に活かして自分自身と向き合って成長したいと思います。

<スポーツ科学科 3 年 藤川 尚輝>

私たち水泳部は 1 月 6 日から 1 月 12 日まで自衛隊体育学校のトレーニングに授業の一環として参加しました。自衛隊の水泳部は、リオオリンピックに出場して銅メダルを獲得した江原騎士選手や、日本選手権の決勝進出者の高橋航太郎選手などレベルの高い選手が在籍しています。私は中・長距離のトレーニングに参加しました。中・長距離のトレーニングでは高橋航太郎選手と 400 メートル個人メドレーでロンドンオリンピックに出場している大塚美憂選手とトレーニングしましたが、二人とも練習に対してとても意識が高いと感じました。水中トレーニング終了後に陸上トレーニングの指導もしてもらい、とてもためになるアドバイスをいただきました。今回の経験を生かして試合でいい結果を残すことが恩返しになると思うので、しっかり学んだことを普段の練習でも継続し、よい結果を出したいと思います。最後に、このような貴重な経験ができる機会を与えてくださった関係者の皆様に感謝致します。

<スポーツ科学科3年 金川 悠太>

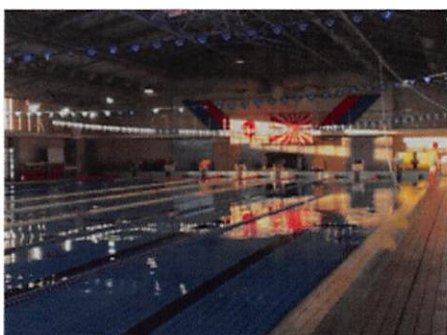
私たちは、1月6日から12日まで自衛隊体育学校水泳班のトレーニングに参加させて頂きました。生活面では、1つ1つが新鮮で、自衛官同士の敬礼や移動の際に掛け声に合わせて走る姿、ラッパによる起床から就寝までの規則正しい生活、食堂の規格外の広さなど驚きの数々でした。競技面では、個別にノルマが設けられており、競泳を突き詰めることの難しさや厳しさを感じました。トップ選手との大きな「差」は、トレーニング内容や1つの動作に対する意識や質が高いことであると強く感じました。また、リオデジャネイロオリンピック800mフリーレーン銅メダルを獲得した江原騎士選手にトレーニングや試合に関する事などを丁寧に教えて頂き、充実した1週間でした。この研修を通して自身の甘さを実感すると共に、世界と戦う選手を間近で観察できる貴重な経験をさせて頂いたことに感謝し、学んだ経験や知識をチームに還元し、今後の競技力向上や意識改革に繋げていきたいと思えます。

<スポーツ科学科3年 原口 拓也>

今回自衛隊体育学校のトレーニングに参加し、アスリートとしての意識の差を感じることができました。特にメイントレーニングでは試合と同じような雰囲気選手一人ひとりの集中力が段違いに高く、同じチームメイトであっても声を掛け合ったりするのではなく、敵対視するかのように練習を行っていました。そういった、雰囲気トレーニングしているため、常にお互いのタイムや泳ぎを意識して自身の競技力の向上に専念しているように見えました。また、私自身も実際にトレーニングに参加して、強度の高さやトレーニング量の多さについて行くのが精一杯で、あまりの差にとっても悔しい思いをしました。最後に、この練習に参加することができ多くの経験を積むことができたのは、多くの方々の御支援や御理解、御協力があつたからです。この機会を与えて下さった関係者の皆様方に感謝致します。

<スポーツ科学科3年 川崎 瑠唯>

今回の研修の目的は、オリンピックや世界選手権へ多くの選手を輩出している自衛隊体育学校水泳班で様々なことを学び、競技力向上、知識を福岡大学水泳部に持ち帰り還元することを目的としたものです。いくつかのチームに別れたトレーニングで、私はミドルロングチームでした。水中トレーニング前にパーソナルトレーナーによる陸上トレーニングがありました。細かい部位から動かして徐々に脳と身体の連動性を高める運動でした。ただ身体を動かすだけでなく、その先のトレーニングを見据えて組まれており、内容の濃いトレーニングでした。水中トレーニングも、練習メニューに対する意識の高さを感じられました。トップレベルアスリートの取り組み、意識の高さ、泳ぎの技術など見習う所が沢山あり刺激を受けました。今回の研修を通して自らの意識を再度確認することができました。このような貴重な経験を活かし、今年いい結果が残せるように努力します。



海外研修レポート（陸上競技部／ピークパフォーマンス演習Ⅱ）

<実習責任者：片峯 隆>

平成 30 年度のピークパフォーマンス演習Ⅱ（海外・国内演習）において陸上競技部の小柳翔君が研究に参加しました。

この度は、台湾高雄市中心でトレーニングを実施しました。日本の冬季は寒く厳しいですが、高雄市は温暖で跳躍練習・スピードトレーニングが十分にでき、シーズンに向けて良い練習となりました。グローバル化が進む近代、多くの選手・コーチとコミュニケーションを取り学生として、学ぶ点が多いことはこの研修のメリットだと思います。人間関係の希薄の時代、このようにグローバル的な知識と交流ができたことは学生の力となることでしょう。

スポーツを通じ、多くのことを学び、福岡大学の学生として社会に役立ち、貢献できる立派な人格となる事を期待しています。

<スポーツ科学科3年 小柳 翔>

今回ピークパフォーマンス演習Ⅱの授業を通じて、陸上競技部（跳躍ブロック）の台湾合宿に参加させていただきました。練習拠点は台湾高雄市中正陸上競技場で行いました。期間は 12 月 20 日から 26 日までの 7 日間で研修を行いました。日本の 12 月は非常に寒さが厳しいので、温暖な場所でトレーニングをすることを研修の目的としました。参加選手は陸上競技部跳躍ブロックでも全日本トップクラスの選手が選出され、日本代表クラスの OB・OG の参加もあり効果的で充実したトレーニングになりました。トレーニング内容は、基本的な動き作りから専門練習まで技術練習を行い、フィジカルトレーニングのスプリント力強化も行いました。この台湾での練習を通じ、普段のトレーニングよりも高いレベルで練習を積むことができ、一人一人が集中し質の高いトレーニングとなりました。また国際交流として台湾の選手・コーチ・陸上競技協会の方々との交流を持つことができました。更に 2017 年に台湾で開催されたユニバーシアード大会で出場された選手やコーチと交流することができ、実に良い勉強になりました。交流の際「言葉の壁」を強く感じコミュニケーションの難しさを痛感しました。私はコミュニケーションを取るために身振り手振りを駆使し言語だけではなく他の方法を使いコミュニケーションをはかり、通じ合えた時はとても感激しました。

私は今回の研修を通して「スポーツで繋がる世界」を身をもって体感しました。現在まで国内試合しか経験がなく、ユニバーシアード出場の選手やコーチと交流できたおかげで、文化や言葉の違いも学ぶことができ、スポーツを通じて競技の楽しさや喜びを共有することが出来ると強く感じました。今回このようなチャンスを与えてくださった先生方やサポートしてくださった方々に感謝し、更に福岡大学に少しでも還元できたらと思います。



平成30年10月31日（水）午後4：30より第二記念会堂リハビリテーション室においてアスリートサポート（バイオメカニクス）の講習会を行った。

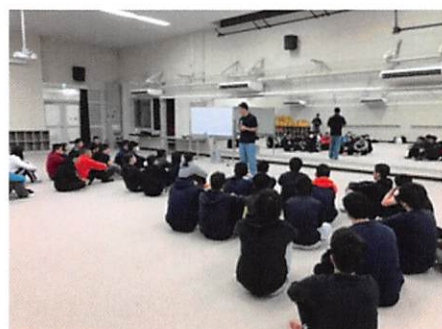
講師は、びわこ成蹊スポーツ大学教授の高橋佳三氏で講習会のタイトルは「古武術 for SPORTS」であった。高橋氏はバイオメカニクスの博士号を持ち、研究者としての肩書を持つ傍ら、古武術を体得し、古武術にみられる特有の体の使い方をスポーツパフォーマンスの改善に生かそうとする第一人者である。最近では、ピョンチャン冬季オリンピックにおける女子スピードスケート 500mにおいて金メダルを獲得した小平奈緒選手に独特なトレーニングの方法を指南したことで知られており、多方面から講習の問い合わせが絶えない人気の講師であった。当日は、実際に身体を動かしながら動作のコツを実演したいとの本人の希望から、講演会ではなく、講習会の形式となった。

古武術をベースにしていることから格闘技であるレスリング、剣道から多くの参加があった一方、サッカーや、陸上競技からの参加もあり、総勢30名余がリハビリテーション室で古武術特有の動作のコツを習得すべく汗を流した。

講習会は、一言でいうと、非常に興味深い体験で、とても一回の講習会では学びきれないと感じざるを得なかった。高橋氏は、元は野球選手（ピッチャー）であるが、バイオメカニクスの理論だけでは球速が上がらなかったという体験が古武術を学ぶきっかけとなったようである。確かに理論は、それ単体では役に立たない。高橋氏のような活動が、理論と実践の橋渡しをすることでスポーツのパフォーマンス向上につながるのではと考えさせられた。また、未だ未解明な古武術のメカニズムの解明にも興味をそそられた。

受講生レポート

本講習を受講することになったきっかけは、私が剣道部に属しており現代武道の源流となる古武術の動作から何か競技力を高めるヒントが得られるかもしれないという興味からであった。講師である高橋先生はスポーツバイオメカニクスと古武術を専門とされており、本講習では、まずスポーツバイオメカニクスの視点から、股関節を中心にパワー発揮する方法を図示して解説いただき、実技講習では腕立て伏せを例に、肩関節と股関節を最大限に可動するコツを学んだ。また、古武術的観点から印象に残っていることは、重心の乗せ方と重心移動の仕方で、土踏まずの上方部分に重心を乗せ、眉間からお臍の辺りまで一直線のイメージで動く



とスムーズな移動ができると教わった。実際に剣道の動作で試してみると初動が少なく移動できるため、対人競技には非常に有効な移動法であると感じた。

高橋先生は、チームスポーツや個人種目問わず、様々なスポーツ選手を指導されており、オリンピック選手などへの指導も手がけておられることから、理論と実践の融合、そして古武術という日本の伝統文化から学ぶ温故知新の精神も競技力を高めるために必要なことだと感じた。普段から専門種目の練習だけでなく、他の競技のコーチング法や理論を学ぶ姿勢を大事にしていきたい。

保健体育教員採用試験対策プログラム

担当責任者 柿山 哲治

Sports & Health
Expert program

2018年度の教員採用試験1次合格者は大阪府・神奈川県・佐賀県高校に各1名、福岡県高校に2名、広島県・長崎県・北九州市中学校に各1名、福岡県中学校に3名、福岡市中学校に7名(含大学院生)、静岡県・広島県小学校に各1名の計20名で、2次試験合格者は広島県中学校1名、長崎県中学校1名、広島県小学校1名の3名であった。したがって、保健体育教員コース36名中3名の合格者(合格率:8.3%)であった。本年度は保健体育教員コースの学生が自主的に実技試験対策講座を早い段階から当学部の先生方に依頼し、陸上競技(梅田教授)、バスケットボール(田方助教)、バレーボール(吉行助手)、柔道(坂本准教授)、ダンス(森本助手)の練習を開始した。また、専任の教員で日程が合わない場合は、教員コース担当者管理の元、器械運動、陸上競技を専門種目としている大学院生を指導補助として実施し、実技練習会を半年間に渡って実施した。さらに、1次試験合格者には、梅田教授、柿山教授、今村准教授による個人面接、場面指導および模擬授業練習会を8月に実施した。なお、福岡市中学校は2次試験で実技試験が課されるため、ダンス、器械運動、陸上競技(走幅跳)の実技練習会を実施した。なお、教員採用試験1次および2次試験合格者に自治体別教員採用試験対策報告書(長崎県、広島県)をパワーポイントで作成するよう依頼し、データベース化を図った。

プログラム概要

- ・保健体育教職演習(保健体育教員コース学生対象に実施)〈担当:梅田教授、今村准教授〉
保健体育教職演習Ⅰ(3年前期)38名、保健体育教職演習Ⅱ(4年前期)36名の履修であった。
保健体育教職演習Ⅰにて、泉啓司氏(福岡県体育研究所・中学校教諭)、秋田瑞弘氏(福岡県体育研究所・高等学校教諭)を招聘し、現在の保健体育の動向や学校現場の状況についてご講演頂いた。
また、保健体育教職演習Ⅱの受講者を対象に、永沼真紀氏(福岡県立早良高等学校長)、森本 泰史氏(福岡県立スポーツ科学情報センター企画情報係長)を招聘し、学校現場で求められる人材や学校と地域の連携についてご講演頂いた。
- ・二次試験対策講座〈担当:柿山教授〉
一次試験合格者に二次試験対策として、柿山教授、梅田教授、今村准教授が面接官役となり模擬授業、場面指導の練習会を1221・1222教室にて実施した。実際の採用試験を想定し模擬授業、場面指導を評価し、その後、授業構成や板書指導の詳細な指導を行った。また、個人面接の対策も同時に行った。
- ・平成31年度教員採用試験実技練習会〈担当:今村准教授〉
陸上競技(梅田教授)、バスケットボール(田方助教)、バレーボール(吉行助手)、ダンス(森本助手)、剣道(渡邊助教)、ダンス(森本助手)の6種目について、助手・助教の先生方に依頼し、担当者の空き時間を利用して、6月から7月にかけて実技試験練習会を各種目2~3回ずつ行った。
- ・福岡市中学校教員採用試験(二次)実技練習会〈担当:今村准教授〉
走幅跳、ダンス、器械運動(主指導:梅田教授、森本助手、指導補助:大学院生)の練習会を個別に行った。
- ・2019年度教員採用試験対策報告書〈担当:柿山教授、今村准教授〉
広島県中学校、広島県小学校、長崎県中学校教員採用試験対策報告書のデータベース化を行った。

<2018年度 公立学校教員採用試験合格者>

安平亮介(広島県中学校)、濱崎彩合(長崎県中学校)、玉川茜(広島県小学校)

合格者レポート

スポーツ科学科 4年 濱崎 彩合（長崎県中学校保健体育）

私は、大学3年生の夏休みに、何か経験したい、周りのライバルと差を付けられるような事をしたいと思い、海外へ短期留学に行き、語学研修やインターンシップを行いました。また、様々なボランティアにも参加するように心がけました。そして、9月中旬頃から勉強を行う環境作りや、受験する自治体の過去問の分析から少しずつ行いました。初めは、何から手を付けていいか戸惑い、勉強の習慣も定着せず、週2～3日のペースで勉強する程度で、頭に何も入っていませんでした。しかし、それを継続していくうちに、毎日勉強が習慣となり、効率よく勉強を進めることができるようになりました。勉強はもちろんの事ですが、多くの経験、自分に興味を持ってもらえるような強みを持つことが大切だと思います。自分の行動が成功しても失敗しても自分の経験として後から必ず役立つ日が来ます。時間を有効に使って、有意義な大学生活にしてください。



スポーツ科学科 4年 安平 亮介（広島県中学校保健体育）

私が教員採用試験（以下、試験）に向けて準備を始めたのは大学2年の終わりからでした。きっかけは、現役で高校の保健体育の教員に合格した地元の先輩の話でした。まず、私は地元の試験について知ることから始めました。受験を希望する自治体ではどんな問題が問われているのかを調べ、その傾向を見つけようと思いました。

勉強法で特に心がけたことは2つあります。まず1つ目は、取り組みやすい勉強から始め、流れと勢いをつけることです。そうすることで、勉強したくない分野があっても、流れと勢いにのることができました。そして2つ目は、とにかく同じ問題集を繰り返すことです。毎日毎日やることで問題を覚えるくらいまで継続しました。

次に、日常生活で心がけたことは、吸収できるものはすべて自分のものにするということです。「これいいな」など思ったらメモをするようにしました。勉強法などは自分に合ったものがあるので、何事も継続することを大切にしてほしいと思います。皆さんの努力が実を結ぶことを祈っています。頑張ってください。



健康運動指導者試験対策プログラム

担当責任者 檜垣 靖樹

Sports & Health
Expert program

<プログラム概要及び成果>

本プログラムは、公益財団法人健康・体力づくり事業財団認定の健康運動指導士および健康運動実践指導者の資格取得を目指す学生を対象に、実技試験および筆記試験対策を下記日程および健康運動指導演習の授業で実施した。特別講師として、健康運動実践指導者の実技試験指導については中山 路氏（スタジオパラディソ、健康運動指導士）にお願いした。

本プログラムの成果として、平成 30 年度健康運動実践指導者認定試験には 3 年次生 11 名が受験し、10 名が合格した（全体の合格率：58.9%）。第 140 回健康運動指導士認定試験には 4 年次生 15 名（既卒者を含む）が受験し、10 名が合格した（全体の合格率：66.7%）。

<実施日程>

平成 30 年 10 月 15 日、10 月 22 日、10 月 29 日：実技試験対策講座

平成 30 年 10 月 15 日～11 月 15 日：健康運動指導士筆記試験対策講座

合格者レポート

健康運動科学科 4 年 本田 紘基（平成 30 年度 健康運動指導士 合格）

本校の健康運動指導者試験対策プログラムは、資格取得を目指す私達にとって非常に大きなものでした。單元ごとにまとめられた予想問題を解き進め、丁寧な解説を受けることで理解が深まりました。試験の範囲は決して狭いものではないですが、毎年の傾向と対策を抑えた本プログラムによって、効率よく勉強ができたと思います。さらに、資格取得を目指す学生と共に勉強できたことも大きな励みになりました。

高齢社会となった現代では、健康寿命を延伸させることが大きな課題の一つに取り上げられています。福岡大学では、本プログラムを通して健康運動指導士の資格を取得し、今現在、医療機関やスポーツクラブ等でこれらの課題に取り組み、活躍している先輩方が数多くいます。私も、これから健康運動指導士の資格を活かし、地域や社会の健康づくりに取り組んでいきたいと思っています。



健康運動科学科 3 年 橋爪 茉衣（平成 30 年度 健康運動実践指導者 合格）

私が健康運動実践指導者に合格するために、本試験対策プログラムは不可欠でした。

このプログラムを受講するまでは、私の中で試験は漠然としたもので、どのように試験対策を進めればいいのか不安でした。しかし、試験内容に特化したプログラムで不安が自信に変わりました。実技試験対策では、外部の先生や前年度に資格を取得した先輩方の力をお借りし、自信を持って試験に臨むことができました。筆記試験対策でも、分野ごとの先生方に分かりやすく教えていただき、着実に自分の力になりました。充実したプログラム内容であったと感じました。

今後は、健康運動実践指導者合格を目指す後輩のサポートをすると共に、私の目標である健康運動指導士の取得に向けての勉強をし、健康運動実践指導者の知識を活かしたいと思っています。



日時：平成 30 年 12 月 10 日(月) 16:30～18:00 場所：福岡大学 第2記念会堂 1222 教室

報告者：築山 泰典、川畑 和也 参加者：学生 21 名、教員 2 名

公益財団法人日本 YMCA 同盟総主事であり、公益社団法人日本キャンプ協会副会長でもある神崎清一氏に「社会教育組織が捉え続けるキャンプの価値 - YMCA キャンプ 100 年から - 」とのテーマで講演を頂いた。私自身、講師の神崎氏から多様なキャンプの在り方や価値の多様を学ばせて頂いた経験から、今回、学生にも直接伝えてほしいとの依頼内容であった。一方的な講義というより、学生に対する投げかけから気づきを導く手法や、多様なプログラム映像を見せて頂くことで、本学のキャンプ実習しか知らない学生たちにとっても視野が広がる体験となった。

受講生レポート

スポーツ科学科 3 年 木戸 菜月

キャンプは自然体験をすることだけが目的ではなく、人と関わり協力をすることで、コミュニケーション能力を獲得したり、また母子家庭や体が不自由な人のキャンプなどではこころのケアをしたり、同じ気持ちの人たちが交流することで元気になったりと、色々なことに繋がるとても良い体験だと思いました。答えが一つではないことを理解し、他者と共有ができるグローバルな人材が求められていることを学びました。

スポーツ科学科 3 年 世利 優衣

今回の講義を聴いて、キャンプを楽しむためには、楽しい、面白いことだけではなく、きついこと、辛いことに挑戦して、それをやり終えた時の達成感を実感することも大切だと思いました。また、キャンプは身体を動かすことばかりをしていますが、絵を描いたり、歌を作ったり、塩を作ったりと自然に触れ合うことも大切だと思いました。キャンプでは、様々な人と関わることで、小集団を通して人格を形成することもできます。映像資料を見て、小さい子供でも頑張る姿を見て、私もそのような子どもの頑張る姿に関わっていきたいと思いました。

健康運動科学科 3 年 西村 友里

今回はキャンプの話をお聴きました。一方的に話を聞くだけではなく、一人一人キーワードを聞いて、イメージすることを出していく参加型の講演会で 1 時間があっという間でした。キャンプとはただ自然の中での生活を楽しむことももちろんですが、人格を育むという目的や意義があることを知りました。人格を育むと、より良い社会を創造していくことに繋がるということを聞いて、指導者次第でたくさんの方が変わっていくと思いました。キャンプ実習などでキャンプカウンセラーとして参加者に関わる際には、一生懸命頑張ろうと思いました。



今年度のステップアップセミナーは、昨年に引き続き現役消防士や青年海外協力隊経験者に加え、幼児体育やミズノ株式会社など、本学部生の特性を活かしたスポーツ関連企業との係わり方について考える時間を新たに設けた。また、現役高校教諭の学部卒業生や、現役内定（企業）取得者、JICA と本学とのボランティア連携事業経験者にも協力を仰ぎ、学生に身近な存在からのアプローチも試みた。今年で 9 年目を迎える本講座であるが、今年度においても幅広い分野の方々の協力を賜り、これまで以上に内容の充実を図ることができた。

本講座における最大の目的は、次年度から就職活動をスタートする 2 年次生に、今何を考え準備しておくべきかを考えさせることにある。この講座を機に、一人でも多くの学生が充実した就職活動をスタートしてくれることを願っている。

講師一覧

- 第 1 回 (9 月 20 日) ガイダンス・一般常識力テスト
- 第 2 回 (9 月 27 日) コンピテンシーテスト
- 第 3 回 (10 月 4 日) 本学の就職・進路支援の実際（就職進路支援センター）
- 第 4 回 (10 月 11 日) 講師：宮成 麻衣 氏
(鎮西敬愛学園 敬愛高等学校 / 平成 25 年度卒)
- 第 5 回 (10 月 18 日) コンピテンシーフォローアップセミナー
講師：武富 祐子 氏（株式会社リアセック）
- 第 6 回 (10 月 25 日) 講師：上村 正洋 氏（パティスポーツ幼稚園博多南校 園長）
- 第 7 回 (11 月 1 日) 講師：道下 亨 氏
(アビスパ福岡株式会社 / 青年海外協力隊経験者 / 平成 14 年度卒業生)
- 第 8 回 (11 月 8 日) 講師：鐘井 佑真 氏
(福岡市消防局 / 平成 22 年度卒業生)
講師：平野 温 氏
(福岡市消防局 / 平成 26 年度卒業生)
- 第 9 回 (11 月 15 日) 講師：田中 肖吾 氏
(ミズノ株式会社 人事部)
- 第 10 回 (11 月 22 日) 講師：秀 泰二郎 氏
(福岡大学スポーツ科学部助教)
- 第 11 回 (11 月 29 日) JICA・ボリビア派遣経験者による報告
(サッカー部 3 名・野球部 2 名)
- 第 12 回 (12 月 6 日) 現役学生による講義：講師：浅田 英揮 氏
(現役学生による就活体験 / スポーツ科学科 / 九州旅客鉄道株式会社)
- 第 13 回 (12 月 13 日) 3 年生として就職活動をどのように取り組むのか？
(就職進路支援センター)
- 第 14 回 (12 月 20 日) 一般常識力テスト及びまとめ

受講生レポート

第4回ステップアップセミナー

講師：宮成 麻衣 氏（平成 25 年度卒：現役私立高等学校体育教員）

今日の講義を聞いて、「思いを行動に移す」ことの大切さを知ることができました。また、その行動の裏側には絶対的自信があり、私も「これだけは誰にも負けない」という得意分野をつくり、自信につなげていこうと思います。また、「何で成績伸びないんだろう？」など、自分を客観視することも必要と思いました。

第7回ステップアップセミナー

講師：道下 亨 氏（平成 14 年度卒：アビスパ福岡株式会社・青年海外協力隊経験者）

JICA 青年海外協力隊はよく耳にしていたので、どんな仕事をするのか？他国での生活はどんなものか？給料はどんな仕組みなのか？など詳しい情報を知ることができ、とても勉強になりました。「スポーツは人生を豊かにする」ことを念頭に置き、もっと視野を広げ、多様な視点から物事をみることができるよう力を身につけ、挑戦していきたいです。



第9回ステップアップセミナー

講師：田中 肖吾 氏（ミズノ株式会社 総務人事部人事課課長）

今日の「真似ることが重要だ！」という話は、これからの学生生活において私の心に留めておきたいと思った。この年になると自分の考えやスタイルというものが確立してきて、変化させたくない部分も多くなってくる。そんな中でも、尊敬できる人、素晴らしい人から学ぶという謙虚さ、柔軟な姿勢を持つことが大切であると感じた。

第11回ステップアップセミナー

講師：JICA・ボリビア派遣経験者（野球部・サッカー部）

野球、サッカーの JICA の活動を聞いて、まったく言葉が通じない国での活動は非常に大変で、整っていない環境に慣れることも難しいと思うが、そこから得るものが多くあるのだろうと感じた。海外でのそういった活動も面白そうでいいなと感じた。



団体の部

〈陸上競技部〉

天皇賜杯第 87 回日本学生陸上競技対校選手権大会 女子 4×100mR	第 3 位
第 102 回日本陸上競技選手権リレー大会 女子 4×100mR	第 1 位
久保山 晴菜 (GS4) 原 菜月 (GS4) 重永 乃理子 (GD1)	

〈ハンドボール部男子〉

平成 30 年度全日本学生ハンドボール選手権大会	第 2 位
野村 雄也 (GS4) 中村 匠 (GS4) 清家 卓也 (GS4) 久保 慶悟 (GS4) 福村 佳 (GS4)	
松本 圭太 (GS4) 門口 航大 (GH4) 森田 匠悟 (GH3) 廣川 功介 (GS3) 高木 華雅 (GS3)	
芳山 直樹 (GS3) 小武 蒼太 (GS2) 吉田 幸平 (GS2) 末岡 拓美 (GS2) 本田 聖夜 (GS2)	
村上 恵亮 (GH2) 谷藤 要 (GS1)	

〈ラクロス同好会女子〉

第 10 回全日本ラクロス大学選手権大会	第 3 位
稲田 明日香 (GS4) 菅 郁乃 (GH4) 志水 結香 (GH4) 中村 栞央 (GH4) 下川 椎葉 (GS4)	
矢野 汐理 (GS3) 月形 友理香 (GH3) 吉元 友佳子 (GH3) 萬野 美和 (GH3) 三島 遥 (GH3)	
高辺 香衣 (GS2) 南里 祐萌加 (GS2) 島田 彩智 (GS2) 柝藪 萌 (GS2) 重松 優里 (GH2)	

〈スカッシュ部〉

第 44 回全日本学生スカッシュ選手権大会	第 3 位
林 照瑠美 (GH4) 池田 菜祐子 (GS4)	

個人の部

〈陸上競技部〉

西川 チカコ (GS4)	2018 日本学生陸上競技個人選手権大会	女子砲丸投	第 2 位
	秩父宮賜杯第 58 回実業団・学生対抗陸上競技大会	女子砲丸投	第 3 位
	天皇賜杯第 87 回日本学生陸上競技対校選手権大会	女子砲丸投	第 3 位
久保山 晴菜 (GS4)	天皇賜杯第 87 回日本学生陸上競技対校選手権大会	女子 100m	第 1 位
		女子 200m	第 2 位
花田 研聖 (GS4)	2018 日本学生陸上競技個人選手権大会	男子やり投	第 1 位
権瓶 明日夏 (GS3)	2018 日本学生陸上競技個人選手権大会	女子走幅跳	第 3 位
	天皇賜杯第 87 回日本学生陸上競技対校選手権大会	女子走幅跳	第 3 位
松清 和希 (GS3)	第 34 回静岡国際陸上競技大会	男子 400m	第 3 位
	2018 日本学生陸上競技個人選手権大会	男子 400m	第 3 位
三上 彩 (GS3)	第 40 回北九州陸上カーニバル (日本 GP)	女子走幅跳	第 3 位
尾山 和華 (GS2)	第 18 回アジアジュニア陸上競技選手権大会 (日本)	女子砲丸投	第 2 位
	TOKYO Combined Events Meet 2018	女子砲丸投	第 2 位
	2018 日本学生陸上競技個人選手権大会	女子砲丸投	第 3 位
	秩父宮賜杯第 58 回実業団・学生対抗陸上競技大会	女子砲丸投	第 2 位
	天皇賜杯第 87 回日本学生陸上競技対校選手権大会	女子砲丸投	第 2 位
	第 40 回北九州陸上カーニバル (日本 GP)	女子砲丸投	第 3 位

神田 菜摘 (GS2)	2018 日本学生陸上競技個人選手権大会 第 40 回北九州陸上カーニバル (日本 GP)	女子走高跳 女子走高跳	第 3 位 第 2 位
井手 彩乃 (GS2)	秩父宮賜杯第 58 回実業団・学生対抗陸上競技大会	女子 1500m	第 1 位
小田 大雅 (GS2)	第 34 回 U20 日本陸上競技選手権大会	男子三段跳	第 2 位
市川 翔太 (GS1)	第 34 回 U20 日本陸上競技選手権大会 (混成競技)	十種競技	第 1 位
津波 愛樹 (GS1)	第 34 回 U20 日本陸上競技選手権大会	女子 400mH	第 2 位
岡部 優真 (GD2)	2018 日本学生陸上競技個人選手権大会 第 52 回織田幹雄記念国際陸上競技大会	男子三段跳 男子三段跳	第 3 位 第 1 位
〈ソフトテニス部〉			
中牟田 翔平 (GH4)	平成 30 年全日本大学ソフトテニス王座決定戦	男子ダブルス	第 3 位
安福 和歩 (GS3)	平成 30 年全日本大学ソフトテニス王座決定戦	男子ダブルス	第 3 位
〈体操競技部〉			
米倉 英信 (GS3)	第 72 回全日本体操競技種目別選手権大会 第 72 回全日本学生体操競技選手権大会	男子跳馬 男子種目別選手権部跳馬	第 1 位 第 1 位
〈レスリング部〉			
田代 拓海 (GS4)	ペトコ・シラコフ・イワン・イリエフ国際大会	男子フリースタイル 57 kg級	第 3 位
今村 太陽 (GS2)	2018 年 JOC ジュニアオリンピックカップ	男子グレコローマスタイル 82 kg級	第 3 位
〈新体操競技部〉			
栗山 巧 (GS3)	第 70 回全日本学生新体操選手権大会	男子種目別 スティック 男子種目別 リング	第 3 位 第 3 位
〈なぎなた部〉			
世利 優衣 (GS2)	第 57 回全日本学生なぎなた選手権大会	演技競技	第 3 位
坂本 優 (GS2)	第 57 回全日本学生なぎなた選手権大会	演技競技	第 3 位
〈柔道部〉			
立川 莉奈 (GS4)	平成 30 年度全日本学生柔道体重別選手権大会 平成 30 年度講道館杯全日本柔道体重別選手権大会	女子 52 kg級 女子 52 kg級	第 1 位 第 2 位
〈ソフトボール部女子〉			
田川 茉理 (GH4)	第 2 回アジア大学女子ソフトボール選手権大会		第 3 位
〈ハンドボール部〉			
中村 匠 (GS4)	第 24 回世界学生選手権 (クロアチア)	U-24 日本代表	第 3 位
末岡 拓美 (GS2)	第 16 回男子ジュニアアジア選手権 (オマーン)	U-21 日本代表	第 2 位
〈サッカー部〉			
河原 創 (GS3)	DENSO CUP SOCCER 第 16 回大学日韓 (韓日) 定期戦	全日本大学選抜代表	
饗庭 瑞生 (GS3)	DENSO CUP SOCCER 第 16 回大学日韓 (韓日) 定期戦	全日本大学選抜代表	

その他

陸上競技部	第 102 回日本選手権リレー競技大会	男子 4×400mR	第 5 位
	第 102 回日本選手権リレー競技大会	女子 4×400mR	第 7 位
	第 87 回日本学生陸上競技対校選手権大会	女子 4×400mR	第 6 位
サッカー部	第 67 回全日本大学サッカー選手権大会		ベスト 8
	第 33 回デンソーカップチャレンジサッカー堺大会	九州選抜 (11 名)	第 3 位
柔道部	平成 30 年度全日本学生柔道優勝大会 (女子 27 回)	女子 5 人制	ベスト 8
	平成 30 年度全日本学生柔道体重別団体優勝大会 (女子 10 回)		ベスト 8
体操競技部	第 72 回全日本学生体操選手権大会	男子団体総合	第 7 位
ソフトテニス部	平成 30 年度全日本大学ソフトテニス王座決定戦	男子団体	第 4 位

教員採用試験

長崎県中学校 濱崎 彩合 (GS4)
広島県中学校 安平 亮介 (GS4) 広島県小学校 玉川 茜 (GS4)

健康運動指導士及び実践指導者認定試験

健康運動指導士

丸山 みなみ (GH4)、田仲 美紀乃 (GH4)、林 照瑠美 (GH4)、平富 剛志 (GH4)、中原 未央 (GH4)
坂本 ともか (GH4)、本田 紘基 (GH4)、菅 郁乃 (GH4)、二神 彩花 (GH4)、山口 美紀 (GD16)

健康運動実践指導者

野口 拓己 (GH3)、谷口 達也 (GH3)、南 俊亮 (GH3)、高橋 愛実 (GH3)、宮平 佳明 (GH3)
綾戸 康祐 (GH3)、橋爪 茉衣 (GH3)、寄田 和暉 (GH3)、加藤 弘樹 (GH3)、南里 真衣 (GH3)

平成 30 年度「福岡大学 暫定的教育予算」 体育・スポーツのエキスパート育成プログラム事業報告書

発行 平成 31 年 4 月 25 日
編集 田中 守 米沢利広 乾 真寛 布目 寛幸 檜垣 靖樹
柿山 哲治 築山 泰典 坂本 道人 野口 安忠 今村 律子
発行者 福岡大学スポーツ科学部
福岡市城南区七隈 8 丁目 19 番 1 号
092-781-6631 (代表)
印刷 有限会社 新幸印刷

<http://www.spo.fukuoka-u.ac.jp>

